

## 女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：帝京大学（総括責任者：冲永 佳史）

## プロジェクトの概要

帝京大学は、学内ニーズ調査で、実験研究の活発な医療系と理工学部において、女性研究者が女性の社会的役割のために仕事との両立が困難であり、男性に比べて昇進が大幅に遅れ、上位職における女性の占有率が少ないことが明らかとなった。そこで、平成25年4月、板橋キャンパスに女性医師・研究者支援センターを開設し、①保育・介護支援、②柔軟な勤務体制、③女性研究者の裾野の拡大に向けた学生対象のキャリア教育・セミナー、語学留学や海外実習の提供、④大学院生・ポスドク・研究者を対象としたジャーナルクラブ、論文執筆セミナー、産学連携支援、競争的資金獲得セミナーの実施、⑤メンター制度の導入、⑥組織内の意識改革、⑦取組のエビデンス構築を行う。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者のニーズを把握し、ライフイベント中の女性研究者への研究支援員の配置、病児・病後児保育を含む保育支援等を進めるとともに、機関内メンター及び国際メンターによるメンター制度を構築し、女性研究者の研究力向上を図るとともに、学長及び副学長のリーダーシップの下、意欲的な目標を設定し、目標を上回り女性教員を70名増加させたものの、特に女性教授等の採用比率等は目標を下回り、今後は、ステアリング・コミッティ（男女共同参画推進会議）体制を軸とし、より全学的な上位職への女性の登用、キャリアパス支援を図ることを期待する。

- ・**目標達成度**：目標を上回る女性教員の大幅な増加、准教授に占める女性比率に係る目標の達成は評価できる。しかしながら、女性教授や女性准教授の採用比率は目標を大きく下回り、教授、講師、助教に係る女性比率、女性研究者の科学研究費補助金採択率に係る目標は達成できておらず、今後は、現状分析を詳細に行った上で、適切な目標を設定し、段階的に着実な成果を上げていくことを期待する。
- ・**取組**：全国に分散する5つのキャンパスの連携の下、女性研究者のニーズを的確に把握し、様々な保育支援制度や介護支援制度を構築、運用したことは評価できる。また、相談窓口の設置、メンター制度の整備、ロールモデルセミナーの開催、キャリア教育の実施等、意識改革のための様々な取組を積極的に実施したことも評価できる。
- ・**取組の成果**：学長及び副学長のリーダーシップの下、機関構成員の意識改革が進み、女性教員

の大幅な増加が進んだことは評価できる。今後は、上位職への女性の登用をより積極的に推進することを期待する。

- **実施体制**：学長直下に全学的組織として5つのキャンパスからの委員が参画する「男女共同参画推進委員会」を設置し、本委員会の下に、副学長をトップとする様々な取組を実施する「女性医師・研究者支援センター」を配置した機動的な実施体制となっており、評価できる。今後は、板橋キャンパスから他の4のキャンパスへ更なる効果を波及させ、より強固な全学体制を構築することを期待する。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後、学長直下にステアリング・コミッティを設置し、事業を大学経営に直結させる体制を整備しており、評価できる。また、人員面においても、常勤職員としてセンター室員を措置し、事業実施のための十分な自主経費を確保しており、取組の継続性と発展性が期待できる。